

2017年3月期 第3四半期決算 電話カンファレンス 主な質疑応答

日時：2017年1月31日（火）16:15 ～ 17:00

出席者：取締役 常務執行役員 財務部門長 浜田 昭博
 広報・IR グループリーダー 小林 太郎

第3四半期決算に関して

- Q1：3Q（10-12月）は2Q（7-9月）に比べて営業利益が増加していますが、理由を教えてください。
- A1：化成品が、石化製品のスプレッドを維持できたこと、融雪剤向け塩化カルシウムの季節性による数量増などにより、6億円の増益となりました。特殊品も、太陽電池向け多結晶シリコンの市況が12月末に向けて上がったため在庫の評価が増加したこと、半導体向けの多結晶シリコンの出荷が増加したこと等により、8億円の増益となりました。
- Q2：石炭市況が3Qから上昇していたと思いますが、影響は出ていますか？
- A2：石炭の購入価格は上がっていますが、在庫がありましたので3Qでの影響は限定的でした。
- Q3：その他セグメントの営業利益が下期計画24億円に対して3Qだけで19億円となっています。この背景と4Qの見通しを教えてください。
- A3：その他の収益で大きなウェートを占めている余剰電力の外販が多かったためです。4Qはボイラーの一基が定修に入りますので3Qよりも減少します。

通期業績予想に関して

- Q4：4Qでの石炭や国産ナフサなど原燃料価格上昇の影響はどの程度でしょうか？
- A4：石炭は一桁億円程度のコストアップになると見えています。国産ナフサは3Qの34,000円から4Qで足元の42,000円程度まで上昇すると10億円強のコストアップになります。
- Q5：当期純利益は3Q累計で通期計画をすでに上回っていますが、大きく上ぶれるのではないのでしょうか？
- A5：今回据え置いた通期予想では、3月末に韓国OCI社にトクヤママレーシアを譲渡する際に発生する譲渡損80億円を4Qの特別損失に織り込んでおり、予定通り譲渡が実現した場合は、当期純利益は3Q累計よりも減少する見込みです。

Q6 : 収益計画の上ぶれにより財務体質の改善が予想以上に早く進んだ場合、優先株の償還が早まる可能性はありますか？

A6 : 以前から申している通り、トクヤママレーシアの譲渡が完了すること、今年度の実績が計画通りとなること、来年度の業績の見通しが大きくぶれないこと、この3点が確認できれば、償還を早める選択肢はあります。

Q7 : トクヤママレーシアの譲渡が予定通り完了すれば、トクヤマの税務上の損失が確定し、来期以降税金の支払いが大きく減少すると考えていいですか？

A7 : 今の計算でいきますと、税効果として来年度以降は年間約30億円の軽減が8年間続くとしています。

トクヤママレーシアについて

Q8 : 太陽電池向けの市況が16ドルまで上がっており、トクヤママレーシアの採算改善が見込まれますが、4Qの収益見通しはいかがでしょうか？

A8 : 据え置いた通期予想から差引すると、トクヤママレーシアは4Qだけで19億円の赤字となりますが、そうならないように努力しております。

Q9 : トクヤママレーシアの譲渡ですが、3月末の予定がずれ込む可能性はありますか？

A9 : 各国当局への手続きは、すべて譲渡先のOCI社が実施しています。台湾では受理されてOKが出ました。中国は当局の窓口から質問が来て、OCI社は迅速に回答していると聞いており、3月末には譲渡ができると考えています。

値上げについて

Q10 : 今回発表された苛性ソーダや塩ビの値上げの背景を教えてください。

A10 : 苛性ソーダは安定供給の継続のため、塩ビなど石油化学製品はナフサ価格が42,000円相当に上がると見ており、それに対応した値上げです。

半導体用途向けの多結晶シリコンについて

Q11 : 半導体は微細化が進み、3D-NANDなども好調です。半導体向け多結晶シリコンの来期販売数量の見通しはいかがでしょうか？数量増に対応するための増設は考えていますか？

A11 : 来期は10%程度の数量増を見込んでいます。製造能力は現状ではもう少し余力がありますので、今のところ増設は考えておりません。